

山田町^{ふっこう}復興計画

● 「山田町^{ふっこう}復興計画」について

これは、山田町が平成 23 年 9 月に出した「山田町^{ふっこう}復興計画（行政素案）のあらまし」の内容を子ども・若者にできるだけ分かりやすいようにセーブ・ザ・チルドレンが書き直したものです。難しい言葉や、もっとちがう言い方がいいなどあれば、スタッフにぜひ教えて下さい！

これのもとになった文章は下のリンク先から見てください。

http://www.town.yamada.iwate.jp/20_fukkou/pdf/fu_soan-gaiyou.pdf

● 目次

1.	山田町 ^{ふっこう} 復興計画とは	2
2.	復興の ^{きほん} 基本的な考え方	2
3.	復興 ^{ふっこう} のイメージ	4
4.	復興 ^{ふっこう} を3つに分けて考える	6
5.	地区ごとのまちづくり計画	9

1. 山田町復興計画とは

「山田町復興計画」は、7月に発表した「山田町復興ビジョン」にあわせて、私たちが目指す将来の山田町の姿を説明したものです。そして、それを実現するために必要な取り組みについて具体的に書いたものです。山田町は7月に「山田町復興ビジョン」を発表した後、山田町の人たちと意見を交換したりしながら、復興計画について考えてきました。そして、その結果を「山田町復興計画」としてまとめました。これからは「山田町復興計画」をもとにして、山田町の人たちの意見を集めます。そして、12月に最終的な「山田町復興計画」をつくる予定です。

2. 復興の基本的な考え方

(1) 復興の基本的な考え方

『二度と津波による犠牲者を出さない』

- ① 津波から命を守るまちづくり
- ② 産業を早くもとに戻し、より良くしていく。
- ③ 山田町に住んでいる人たちが主役となった地域づくり

(2) どうやってまちの^{きほん}基本をつくるか

被災した海^{ひきり}ぞいの^{ちいき}地域を中心として、三陸^{じゅうかん}縦貫自動車道をのぼすことが期待されている豊間^{とよまね}根地区と協力することも考えながら、次のような考え方で、復興^{ふっこう}まちづくりを進めていきます。

●元々あるまちや集落を^{きほん}基本にした、コンパクトなまちづくり

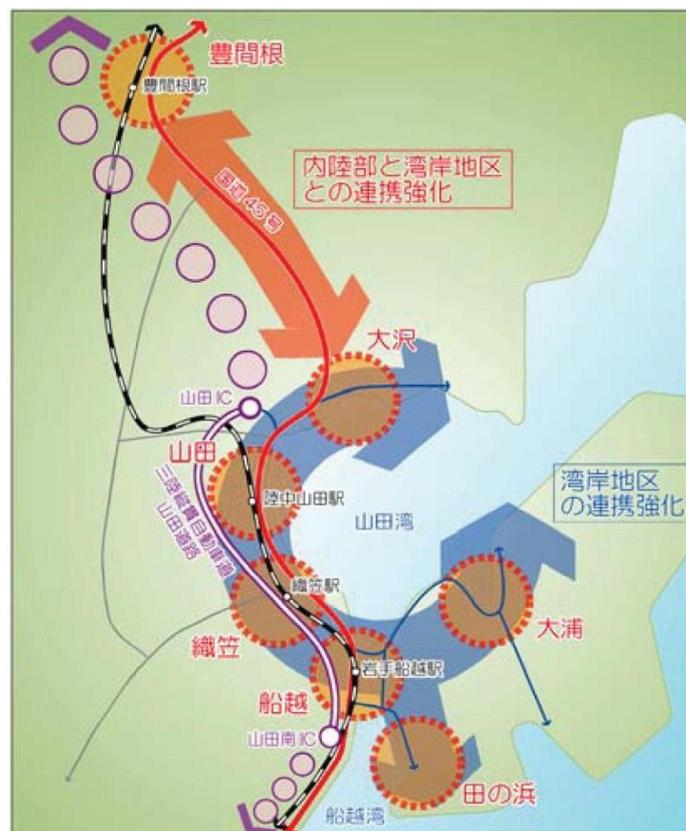
まち・集落をもとどおりにすることが^{きほん}基本です。新しい開発などはできるだけ少なくします。山田^{わん}湾・船越^{ふなこしわん}湾を中心にした、コンパクトで暮らしやすいまちをめざします。

●豊かな自然と一緒に生きていける美しいまちづくり

山田^{わん}湾・船越^{ふなこしわん}湾や周りの山々の豊かな自然をいかして、海や山が近くに感じられる、まち・集落と海や山が一緒になった美しいまちを目指します。

●いろいろな仕事がある元気なまちづくり

三陸^{じゅうかん}縦貫自動車道が全部使えるようになったとき、広い^{ちいき}地域との結びつきが強まることを考えて、その結びつきによって水産業、農林業、商工業、観光業などいろいろな産業が活発に活動するまちをめざしています。



3. 復興のイメージ

今までで二番目に高い津波（明治三陸大津波）の高さに耐えられる防潮堤を整えます。

そして、まちの中心となる「*防災施設」や「土地の使い方」、「交通のありかた」について次のようにします



防災施設とは、

災害から、まちや人を守るための施設のことです。

防災施設の

基本的な

考え方

- 今までで 2 番目に高い津波（明治三陸大津波）に耐えられる防潮堤を整えます。（これは岩手県の基本計画です）
- 東日本大震災津波のレベルに対しては、地面を高くしたり、避難対策を強化します。
- 避難場所は津波の被害を受けない場所につくります。
- 津波によって被害を受けそうな場所には、すぐに避難するための施設をつくります。
- 三陸縦貫自動車道ぞいに防災の重要な場所を準備したり、整えたりします。

交通の

ありかたの

基本的な

考え方

- 三陸縦貫自動車道を早く完成させることを目指します。
- 国道45号線は基本的に今のルートのままにします。
- 災害時にもきちんと通れるように、高台どうしをつなぐネットワークを整えます。（災害があったときには代替りの道路になります。）
- 土地が低いところから高台に速く移動できる避難道路を整えます。
- 鉄道は、施設の安全や、利用する人がもっと便利に使えることを1番に考えて、早くもとに戻すことを目指します。

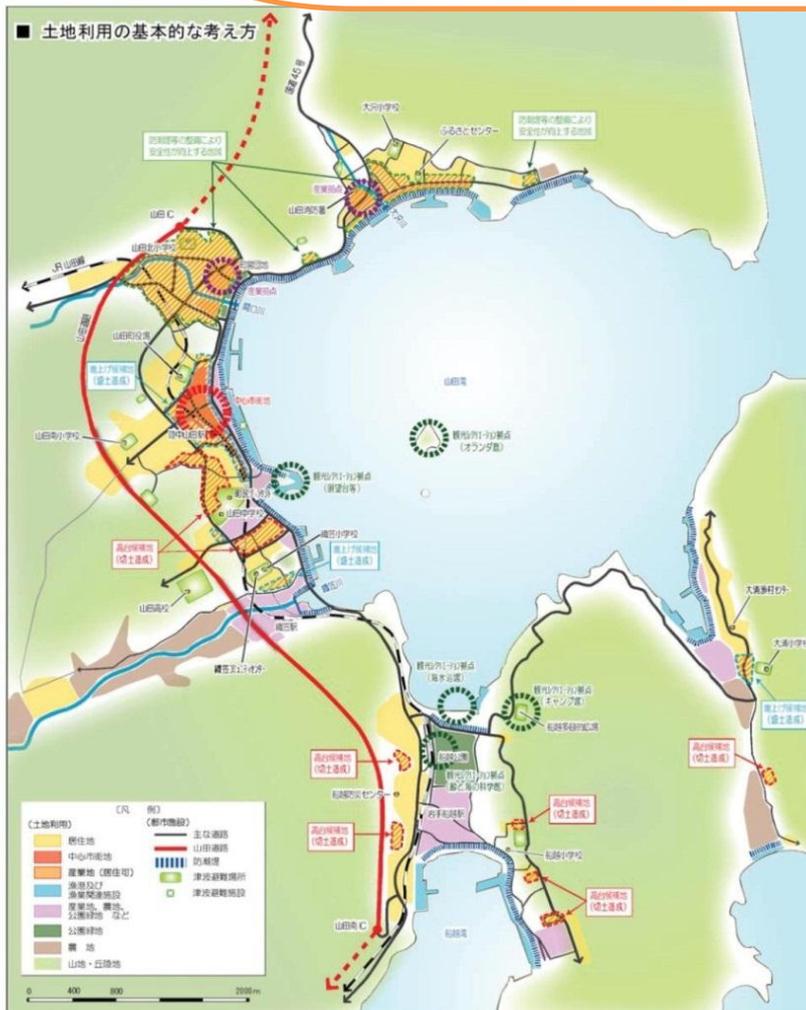
土地の使い
 方の基本的
 な考え方

- 被災しなかった集落はできるだけ現在の場所に残します。
- 被災した場所の一部は土を盛って高くして、安全な住宅地としてもう一度新しくつくりまます。
- 今までのまちと集落の関係を考えながら、丘をつくって、新しい住宅をつくりまます。
- 漁港や漁港関係の施設は、基本的に今ある場所をいかして元に戻します。
- 陸中山田駅の周りを山田町の中心にして、にぎやかな場所になることを目指します。
- 国道45号線ぞいに、お店や*水産加工の工場、*流通施設などがつくられるようにします。



水産加工とは、
 海や川からとれた生き物を使って、ものをつくることです。例えば、魚のすり身からかまぼこをつくることなどです。

流通とは、
 商品をつかった人のところから買う人のところに運ぶことです。



※ 本図面は復興のイメージを示したものであり、今後、詳細な調査、市民意見、関係機関との協議などにより、内容が大きく変わることがあります。

4. 復興を3つに分けて考える

①「津波から命を守るまちづくり」、②「仕事を早くもとに戻し、もっと良くする」、③「山田町の人たちが中心となった地域づくり」の3つに分けて、それぞれ、これから取り組まなくてはならないことを書いています。

1 津波から命を守るまちづくり

大きな項目	小さな項目
安全・安心でいきいきとした力を生み出す土地の使い方を実現する	海岸を守る施設をもとどおりにして整える
	安全に住める場所を整える
	いきいきとした力を生み出す産業地（働く場所）を整える
	農地や公園などへ土地の使い方を変える
	*防災拠点や避難場所を整える
	自然環境ときれいな景色を守る
災害に強く、便利な交通をつくる	津波の災害の危険性についての情報を、周りの人にきちんと伝える
	三陸縦貫自動車道を整えていく
	国道45号線をつくりなおす
	避難道路を整える
	まちと集落の間をつなぐ道路を整える
	JR山田線をもとに戻す
安定してものが手に入ったり、処理したりできるようにする	バス路線を充実させる
	水道や下水道を整える
	非常時に発電する設備を整えていく
	新しいエネルギーを取り入れることを進める
	災害で出たゴミをきちんと処理する
情報や通信するしくみをもっとしっかりする	ゴミを減らし、リサイクルを進める
	*防災無線を置きなおす
	情報を通信するために、いろいろな方法を用意する

防災拠点とは、
災害時にまちを守る活動の中心となる施設や場所のことです。

防災無線とは、
非常時や災害時にいち早く正確な情報を
人々に伝えるために使われる無線です。



2 まちの産業を早くもとに戻し、もっと良くする

大きな項目	小さな項目
*水産業を早くもとに戻し、もっと良くする	漁港や漁場・養殖場をもとに戻す
	水産物（海などでとれたものを加工する施設）や市場をもとに戻す
	漁業をする仕組みをもっとしっかりとする
	山田町でとれる水産物をブランド化して、たくさん売る
*農林業を早くもとに戻し、もっと良くする	農林業のものを作る土台をもとに戻して整える
	農林業をする仕組みを強化する
	お金を稼げるような農林業を実現する
*商工業を早くもとに戻し、もっと良くする	仮設の場所で早く仕事を再開できるようにする
	経営が安定するように支援する
	お店をまとめた場所に集める
	工場などをまとめた場所に集める
*観光業を早くもとに戻し、もっと良くする	山田町が広く知られるための仕組みを整える
	観光に来てもらえるようなものを見つけ、整える
	泊まって観光できる場所を充実させる
	観光客がたくさん来るように呼びかける

水産業とは、

海や川からとれる生き物をとったり、養殖したり、保存・加工したりする仕事です。

農林業とは、

農業（農作業をする仕事）と、林業（森や林を育てて、木材をつくる産業）です。

商工業とは、

商業（ものを売る仕事）と工業（自然のものに手を加えて、商品をつくる仕事）です。

観光業とは、

他の地域の人が、その場所の景色や食べ物などを楽しみにくるようにする仕事です。



3 山田町の人たちが主役となった地域づくり

大きな項目	小さな項目
*コミュニティの絆をもう一度つくる	復興についての情報を発信する
	同じ地域に住む人のつながりをもう一度つくる
	地域でお祭りやイベントをする
	震災の経験を記録して、将来の子どもや孫に伝えていく
被災した人の生活を支援する	いろいろな生活支援についての情報を発信する
	安定して働ける場所を用意する
	安心して暮らせるところを用意する
*医療・介護・福祉・教育をもとに戻す	医療・介護・福祉の施設が早くもとに戻るようにする
	地域の医療の仕組みを強化して、健康を守るための活動をする
	介護や福祉のサービスを充実させる
	教育に関する場所を早くもとに戻す
	学校の児童や生徒に心のケアをする
まちづくり活動を支援する	同じ地域に住む人のつながり・集まりを生かした活動を支援する
	地域の防災活動を支援する
	NPO やボランティア団体を育てたり、支援したりする



コミュニティとは、

同じ地域に住む人々のつくる社会・関係のことです。

医療・介護・福祉・教育とは、

医療：病気やケガをなおす治療

介護：病気などで助けが必要な人を助けること

福祉：みんなが安定した生活をできるように、うけられるサービス

教育：大事なことを教えて、育てることです。

5. 地区ごとのまちづくり計画

大沢地区

基本の方向

- 大沢漁港は今ある場所でもとに戻す。
- 大沢漁港の北は、水産物を加工する施設などの場所にする。
- 国道 45 号線ぞいを商業の施設などの産業地にする
- 浜川目と国道 45 号線をつなぐ重要な道路を整える。
- 今ある林道を部分的に広くして高台道路をつくる。
- 重要な道路から高台道路へ避難する道となる道路をいくつか整える。
- 浜川目は防潮堤を整えて、今の場所に住むところをつくる。

復興パターン 案1（袴田の住む場所を今ある場所のままにする）

考え方 袴田は防潮堤を整えて、今の場所に住むところをつくる。

良い点 ○ 袴田は今の場所でもとどりにするので、今まであったコミュニティをそのままにできる。

良くない点 ▲ 袴田は国道 45 号が通れなくなった場合には車での避難が難しい。

The map for Case 1 shows the layout of the Otsu area. Key features include:

- Land Use (土地利用):** Residential (居住), Central City (中心市街地), Industrial (産業地), Public Green (公園緑地), and Mountain/Hill (山地・丘陵地).
- Infrastructure (都市施設):** Main Road (主要道路), Mountain Road (山田道路), Flood Protection (防潮堤), and Evacuation Routes (避難路).
- Other:** Existing Evacuation Sites (居住候補地) and proposed ones for safety (防潮堤の整備等による安全性の向上).

復興パターン 案2（住む場所を国道 45 号線と大沢川の間に移動）

考え方 国道 45 号と大沢川の間に住むところをつくる。

良い点 ○ 住むところをまとめた場所につくれるため、まとまりのある町づくりができる。

良くない点 ▲ 移動について、住んでいる人の意見を合わせる必要がある。

The map for Case 2 shows the same area as Case 1 but with the residential zone (居住) relocated to the strip between National Route 45 and the Otsu River. The legend and other infrastructure details remain the same as in Case 1.

山田地区

基本の方向

- ・国道 45 号は今のルートのままにする。
- ・山田漁港は今の位置でもとに戻す。
- ・都市計画道路細浦柳沢線は、今の計画ルートのままにする。
- ・JR山田線は今のルートを基本にして、まちの中心のかさ上げ（土地を高くする）のに合わせて、もっと安全で便利なものにする。
- ・海側から山側への避難路をきちんとした位置につくって、三陸縦貫自動車道のまわりに防災拠点を整える。

復興パターン 案1（中心市街地周辺のかさ上げした部分と高台に住むところをつくる）

考え方

- ・国道 45 号より山側に土を盛って土地を高くして、被災前とほぼ同じ位置に町の中心部をつくる。
- ・細浦柳沢線のまわりに住むところをつくる。
- ・山田中学校北側の丘を削って、高台に最小限の住むところをつくる。



良い点
・
良くない点

- 高台では、より安全に住むところを用意することができる。
- ▲地面を削って住むところをつくるので、案2に比べて、住むところをつくるのに時間がかかる。

復興パターン 案2（住むところの一部を北浜・柳沢地区へ移動）

考え方

- ・国道 45 号より山側でかさ上げをして、被災前とほぼ同じ場所に町の中心部をつくる。
- ・細浦柳沢線のまわりに住むところをつくる。
- ・住む場所は、柳沢・北浜地区も候補として考える。



良い点
・
良くない点

- 地面を削らないから、早く住むところを整えられる。
- ▲住んでいる人の移動の考えと柳沢・北浜地区の土地を持っている人との意見の調整が必要。

おりかさ
織笠地区

基本^{きほん}の方向

- 織笠漁港は今の場所のまま、もとに戻す。その隣の国道45号線のまわりは産業のための土地にする。水産加工のための施設、国道にあるような大型のお店が集まる地区にするよう進める。
- 織笠川のまわりの集落は基本的に人が住まないようにする。後ろにある丘などで安全に住めるところを用意する。
- 国道45号は今のルートのままにする。そして、それと平行に高台道路を整える。
- 海側から山側へ避難する道をきちんとつくる。三陸縦貫自動車道のまわりに防災拠点も整える。
- JR山田線は今のルートをもとにして、まちの中心の作り直しにあわせて駅の場所を移動することも考える。

復興^{ふっこう}パターン 案1（織笠川の左側の岸をかさ上げし、織笠小学校北側の高台に住む場所をつくる。）

考え方

- 織笠川の左側の岸のかさ上げした部分に、住む場所をつくる。
- 織笠小学校北側の丘をつくりかえて、高台に最小限の住む場所をつくる。



良い点○
 ・
 良くない点▲

- 浸水しなかった今の集落に隣り合って住むところが作られるので、地域のつながりをそのままにできる。

復興^{ふっこう}パターン 案2（織笠小学校北側の高台に住む場所をつくる。）

考え方

- 織笠小学校北側の丘をつくりかえて、住むための広い場所をつくる。



良い点○
 ・
 良くない点▲

- 住む場所の大部分が高台に移動するので、今までよりとても安全になる。
- ▲ 住むための土地をつくる工事をするのに、お金がたくさんかかる。住む場所をつくるために長い時間がかかる。
- ▲ 人が住まない土地が広がる。その土地を使う方法を考える必要がある。

船越・田の浜地区

- 基本の方向
- 船越漁港は今ある場所のまま、もとに戻す。
 - 船越公園の周りは観光レクリエーションゾーンにする。鯨と海の科学館、海水浴場、キャンプ場などをもとどおりにする。津波を伝える建物などを整えることも考える。
 - 船越地区では、津波被害を受けた集落は国道 45 号線のまわりに移す。
 - 田の浜地区では、津波被害を受けた集落は高台道路をきちんとするのにあわせて、道路と一緒に高台に移す。船越小学校もより安全な高台に移す。
 - 国道 45 号と JR 山田線は今のルートのままにする。
 - 船越地区と田の浜地区を結ぶ安全な道路を整える。

船越

復興パターン 案1

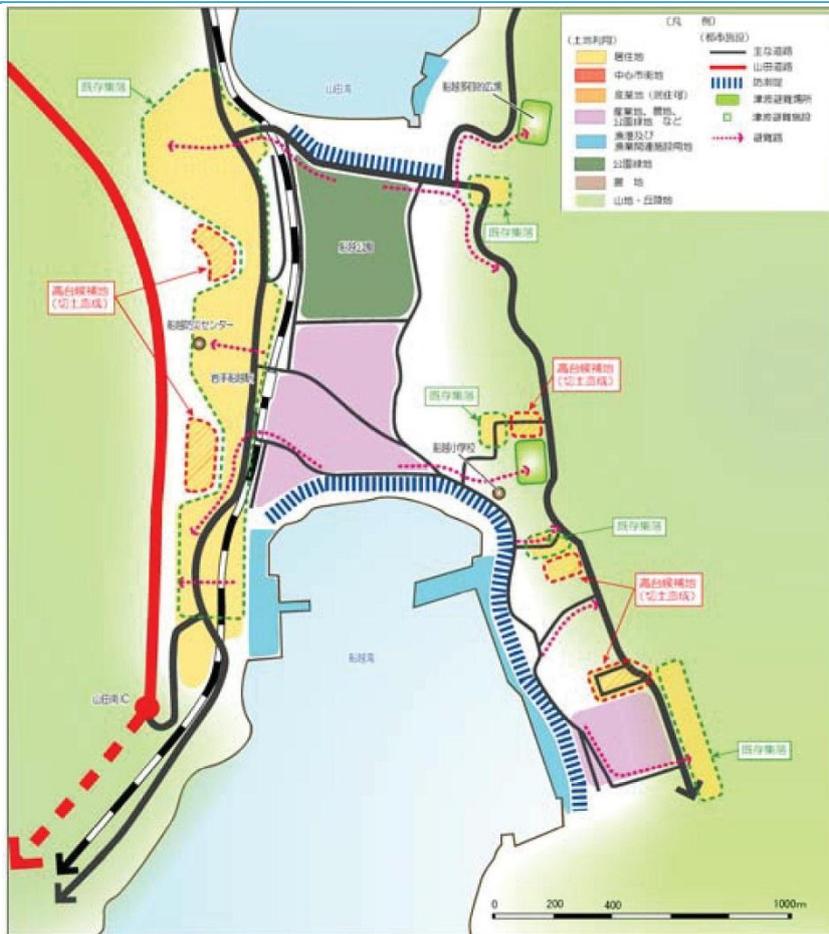
田の浜

国道 45 号線の西側に
 住む場所をつくる。

考え方
 ・国道 45 号線
 の西側を削って
 住む場所をつくる。

良い点
 ○案 2 より高台
 へ移すので、
 より安全。
 ▲案 2 に比べると
 漁港から遠い。

良い点
 ○・良くない点
 ▲



今ある集落の周りの高
 台道路のまわりに住む
 場所を分けてつくる。

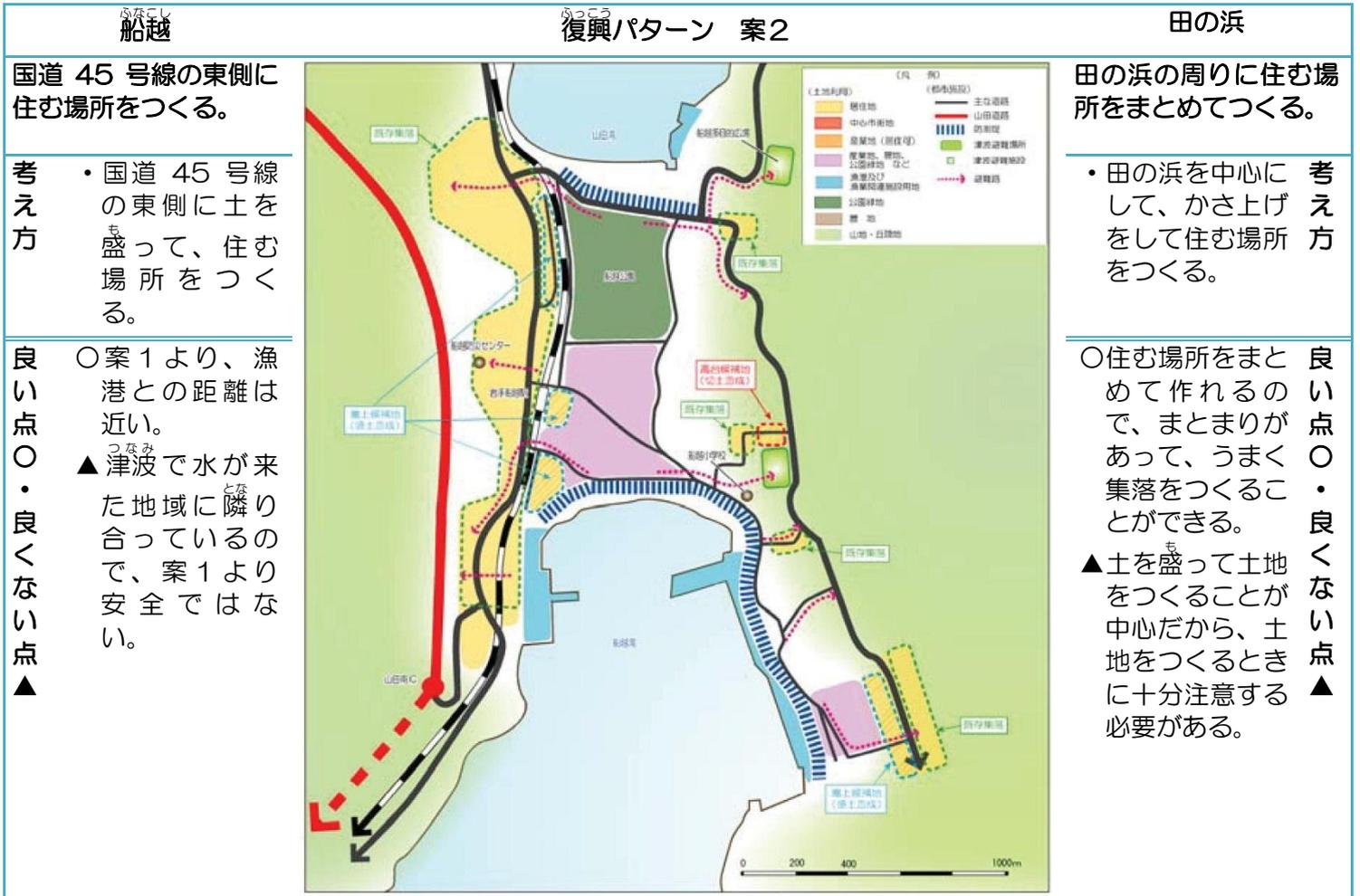
考え方
 ・被災前住んでい
 た場所と隣り合
 った高台の道路
 のまわりに住む
 場所をつくる

良い点
 ○今ある集落に隣
 り合って住む場
 所をつくるので、
 今ある地域の
 つながりをその
 ままにできる。

良い点
 ○・良くない点
 ▲

○高台に移るので、
 今までよりも
 とても安全になる。

▲住む場所が別れ
 別れになるので、
 案 2 より、
 準備や管理が大
 変。



おおoura
大浦地区

基本の
方向

- 大浦漁港は今ある場所のまま、もとの戻す。
- 津波被害を受けた大浦の低い土地にある住む場所は、大浦小学校のまわりの高台に移す。
- 大きい被害を受けた小谷島は、漁港は必要最小限だけもとどおりにする。でも、住む場所は高台に移す。
- 高台に今まであった集落の道路を広くする。そして、船越地区とつながる道路を整える

復興パターン 案1

(大浦小学校と小谷島に住む場所をつくる)

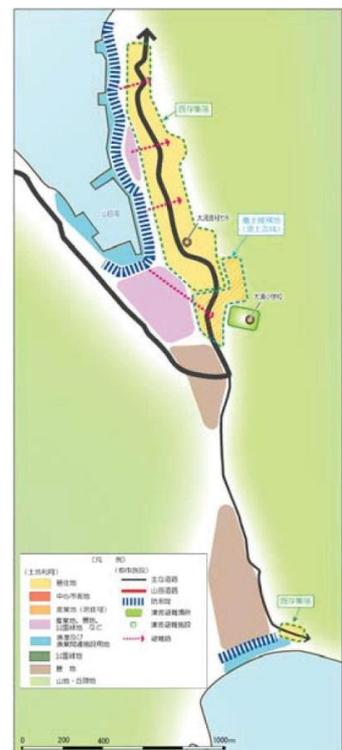
復興パターン 案2

(大浦小学校の周りに住む場所をまとめてつくる)

考え方

- 今の集落と隣り合った、大浦小学校の周りとなと小谷島に住む場所をつくる。

- 大浦小学校の周りの土地を大きくつけて、住む場所にする。



良い点

- 今の集落と隣り合っとなて住む場所をつくるので、今ある地域のつながりをそのままにできる。

- 住む場所をまとめて作れるため、まとまりがあって、効率的に集落をつくることができる。

良くない
点▲

- ▲ 住む場所が分かれるので、案2より準備や管理が大変。

- ▲ 小谷島から移る人の意見をまとめることになる。

【参考：中心市街地の断面イメージ】

